

小説家・万城目学の秀長だより

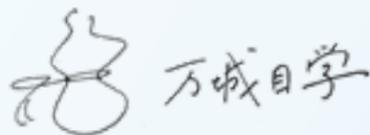
豊臣秀吉の弟であり秀吉の補佐役としてその手腕を発揮した豊臣秀長。天下を見つめた「もう一人の豊臣」について語る、よもやまストーリー。秀長生誕の地・名古屋にある中村公園を巡り、知将の面影と兄弟の原点に迫ります。

第2回 秀長の足跡が眠る中村公園と英傑たち

中村公園のあたりは、かつてはただ「中」とだけ呼ばれた場所であり、田んぼが広がる農村だった。この「中」のどこかで、のちの豊臣秀吉と秀長となる二人が生まれた。

中村公園内には「日吉丸となかまたち」と題して、五人の少年の像が立っている。少年時代の秀吉のまわりにいるひとは弟秀長なのかもしれない。当時、「小竹」と呼ばれていた秀長は、秀吉より三歳年下だった。

公園の横には加藤清正を祀る妙行寺がある。清正もまたこのご近所で生まれたようで、これほどの狭いエリアに英傑が生まれる例は、鹿児島島の西郷隆盛、大久保利通らが生まれた加治屋町エリアの他に例がないのではないか。公園内にある「秀吉清正記念館」という名前、ひょっとしたら今後、その名前の間に秀長の名前が入るかもしれない。



まきめ・まなぶ／1976年、大阪府生まれ、小説家。
「鹿男あをによし」や「プリンセス・トヨトミ」など、ヒット作を多数発表。
「八月の御所グラウンド」にて第170回直木賞を受賞（2024年）。



中村公園「日吉丸となかまたち」の像
※日吉丸は秀吉の幼名
(名古屋市営地下鉄中村公園駅下車徒歩約10分)



名古屋市秀吉清正記念館(中村公園内)

小説家・万城目学の秀長だより

豊臣秀吉の弟であり秀吉の補佐役としてその手腕を発揮した豊臣秀長。天下を見つめた「もう一人の豊臣」について語る、よもやまストーリー。直木賞作家で、「プリンセス・トヨトミ」の作者として知られる万城目学さんがその魅力について語ります。

第1回 豊臣秀長の生誕地を訪ねて

尾張中村と言えば、ご存じ豊臣秀吉の生まれ故郷として名高いが、どこにあるかは案外知られていない。実は近鉄名古屋駅から徒歩で行ける距離に中村はある（そもそも近鉄名古屋駅自体が名古屋市中村区にある）。

太閤口から太閤通を進んでみよう。「太閤秀吉功路」という案内に導かれ、てくてく歩くと、豊臣秀吉の立身出世ぶりを伝えてくれるプレートが道しるべとして続々登場する。

駅からのんびり50分ほど歩いたところで、通りをまたぐ巨大な鳥居に迎えられる。プレートも30枚目の「醍醐の花見」にて終了。ここからは参道が続く。その先にはゴールである中村公園が、公園中央には秀吉を祀る豊國神社があなたを待ち構えている。すなわち、その場所こそが豊臣兄弟生誕の地である。

 万城目学

まきめ・まなぶ／1976年、大阪府生まれ、小説家。
「鹿男あをによし」や「プリンセス・トヨトミ」など、ヒット作を多数発表。
「八月の御所グラウンド」にて第170回直木賞を受賞（2024年）。



中村公園(近鉄名古屋駅下車または
名古屋市営地下鉄中村公園駅下車徒歩約10分)



豊國神社(中村公園内)